

わくわく倶楽部 祇園祭研究会 祇園祭見学-1 (25.7.17)

「武者行列見学」

集合日時：2025年7月17日(木) 15時45分～

集合場所：弓矢町弓箭閣付近

参加者：9名(都草会員6名と会員の同伴者3名)

武者行列とは、鎌倉時代後期から始まったといわれ、祇園祭神輿渡御で先頭を歩き警護や露払いの役割を担ったといえます。

昭和49年(1974)からは、甲冑の修繕費が工面できなくなり行列を中止し、町内での武具飾りに切り替えておられました。

しかし、弓矢町町内の方の努力や寄付金もあって、鎧司の明珍阿古さんによって修復が施され、今年51年振りの復活が叶えられたのでした。

修復されたのは、大将が着る鎧【よろい】と大将が乗る馬の鞍【くら】です。

鎧は、傷んだ箇所を手入れするだけでなく、現代の男性の体格に合わせて丈や幅を伸ばされたといえます。

鞍は、三つ葉葵紋が入った丁寧な造りで、修復の過程で1787年のものと判明されました。かなり上等で、身分が高い人が使っていたのではないかといわれます。

祇園研では、2022年7月16日に弓矢町武具飾りを見学いたしました。その時に、修復はかなり困難なことで行列参加はむずかしいとお聞きしておりましたので、この度の復活は、町の方がどんなにか喜んでおられる事かと察せられ、こちらまでうれしくなりました。

午後4時 弓矢町弓箭閣付近

5人の武者が、大将を中心に甲冑姿で弓箭閣を出発し、弓矢町町内を一周して、六原清々講社社長高橋慎司さん宅に向かいます。



大将

小雨降る中の行列でしたが、雨除けのビニールをはおることもなく歩かれました。

高橋家で小休憩を取り、兜を大将は金色、他の 4 人は黒色の烏帽子に替え八坂神社に向けて出発されました。



高橋家での小休憩

宮川筋は道幅が狭い為追従はできません。という警備にあたっていた警察官の指示があり、次の見学までが自由行動となりました。

午後 6 時 四条通大和大路交差点付近

八坂神社を一番に出発した武者行列は、触れ太鼓の音とともに四条通大和大路の交差点までやってきました

三基の神輿が、八坂神社西楼門階段下での出発式が終わるまでこの場所で待機です。大将は馬に騎乗したままです。



30分くらいたち豊園泉正寺榊組が近付いてきますと触れ太鼓が鳴らされ出発していきま



その後 宮本組神宝列、駒形稚児（駒形がご神体で、素戔鳴尊の荒魂と言われています。）が続き、ほいっと ほいっとという掛け声とともに三若による中御座がやってきました。



中御座には、清々講社に属しておられる都草会員の谷川さんが供奉されておられます。

袴を着たりりしいお姿でした。

その谷川さんから、蘇民将来子孫也と書かれた捻り守りがついた櫛を、参加者に授与していただきました。



前祭山鉾巡行は、しっかりした雨がずっと降り続けておりました。しかし、神輿渡御が始まる頃には、雨もあがり夕焼けさえ見られる天候となりました。
3 基の神輿は氏子地域を巡行して四条御旅所に納まり、還幸祭までここに留まりま
す。

報告：植村多賀子

写真：小松香織、八木澤哲雄